

菊川市総合計画策定委員会 「元気！菊川市 創造チーム」

平成22年9月10日（金）

小笠東地区コミュニティセンター くすりん



合併して5年間の成果（ハード事業）

- 掛川浜岡線BP、朝日線JRアンダーの整備
- コミュニティセンターの整備
- 小中学校の施設整備
- 幼稚園・保育園の施設整備

今までの取り組みに加え、
市外に向けて菊川市を発信していくことが重要



合併して5年間の成果(ソフト事業)

- コミュニティ協議会の立上げ
- 菊川市1%地域づくり活動交付金制度
- 放課後児童クラブの開設
- 日曜開庁、水曜日業務延長

今までの取り組みに加え、
市外に向けて菊川市を発信していくことが重要



菊川市第1次総合計画の位置づけ

- 合併時の「新市まちづくり計画」をベース
- H19～H28のまちづくりの指針が示されている

<構造>

- 基本構想・・・10年、理念・将来像、議会で決定
- 基本計画・・・5年、施策体系をまとめたもの
- 実施計画・・・3年、庁内で策定し予算に反映

基本計画を見直す上で
2つの視点を持っていただきたい



視点1 後期5年間で達成すること

- 前期5年間で出来たこと、出来なかったことの検証し、計画の見直し・軌道修正を行う
- その上で、後期5年間で「これは絶対にやり遂げる！！」という施策のメリハリ(選択と集中)



視点2 第2次総合計画への橋渡し

- 後期5年間だけ考えていけばよいわけではない
- 10年後、20年後も菊川市は存在する
- 5年という枠組みを超えた長期的な視点をもって次世代の菊川市のための‘種まき’をしておく



地方自治体・菊川市の課題

- 人口減少と少子高齢化
 - 世代間の支え合いを前提とした社会保障制度、介護問題
 - 人口増加という最大の活力を失う
 - 地域コミュニティは維持できるのか
- 財政問題
 - 景気低迷による税収ダウン
 - 地域主権の流れによる事務量の増大

放置すると…
都市機能としてジリ貧へ向かってしまう



課題への対応策

- 備えること
 - 行財政改革 等
 - 介護制度の充実、地域医療の充実 等

+ α で・・・

- 都市の元気、活力の維持
 - 産業の活性化
 - 定住人口、交流人口の増加策
 - 都市のイメージアップ、シティプロモーション



どんな施策・事業が効果的か？

例えば・・・

- 分野ごとの視点
 - 福祉医療分野: 開業医と総合病院の連携
 - 産業分野: 6次産業等の新ビジネスの構築
 - 環境分野: 公共下水道や合併浄化槽の普及強化
- 対象別の視点
 - 地域: コミュニティの活用
 - 企業: 地元企業間の連携
- 年齢ごとの視点
 - 生産年齢世代: 子育ての充実
 - 高齢者世代: 医療・介護の充実、優しい移動手段の確保



『住みたくなるまち』の実現

合併6年目を迎えて、皆さんに質問です

- 「菊川市ってどんなまち？」
- 「菊川市の強み・弱みは？」
- 「菊川市ならではのものって？」
- 「菊川市に住み続けたいですか？」
- 「菊川市は選んでもらえる都市ですか？」

菊川市に特徴づけをしていきたい



私の考える住みたくなるまち

- 家庭医プロジェクトと菊茶香ネット(仮称)
 - 家庭医は全国に先駆けて取り組んでいる
 - 医療ネットワークを形成し、総合病院の過度な負担を避ける
- 子育て支援、幼保連携
 - 若い世代のエネルギーに期待
 - 若い人に選ばれるようなまち、若い人を逃がさないまちにしたい
- 環境がよいまち
 - 森林、里山など自然環境の保全
 - 資源を有効に利用する循環型のまちづくり



皆さんの力に期待します！！

- 菊川市は東京と名古屋の大都市圏に挟まれ、また静岡と浜松の県内2大都市の中間地
- JR菊川駅、菊川ICなど交通基盤もある
- 気候も恵まれており、みどりも豊か



地域資源を最大限生かして魅力あるまちづくりを

最大のポイント
行政と市民が一緒に連携・協力して対応

